

| | |
|-------|---|
| 名 称 | やまなし青少年体験活動支援センター |
| 所 在 地 | 〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2丁目35-1 山梨県ボランティア・NPOセンター内 |
| 連 絡 先 | TEL : 055-224-2941 FAX : 055-232-4087 URL : http://www.yamanashi-nponet.jp/~siencenter |

地域の現況・特色

山梨県は、県土面積4,465km²（全国第32位）、人口約89万人。日本列島のほぼ中央に位置している。周囲を急峻な山々に囲まれ、県土の78%を山林が占め、山岳・森林・湖沼・溪谷など豊かな自然景観に富んでいる。

主な産業は農業分野においては、葡萄や桃などの落葉果樹の生産が盛んで、農業生産の中核を成している。また、工業分野では、ジュエリー（宝飾）、ワイン、絹織物、印章などの風土に根ざした地場産業がある。

本県では、1970年代よりボランティア活動が県の重点施策として位置付け、人づくり、活動推進基盤の整備などが進めている。また、各市町村内では自治会活動や公民館活動が盛んで、生涯学習分野や生活課題に対する地域住民の主体的な取り組みが行われている。学校現場においては、福祉教育やボランティア活動が教育課程に積極的に取り入れられ、全小・中学校で地域の特性を活かした活動が行われている。

青少年の体験活動ボランティア活動の推進においては、平成14年7月より県支援センターほか、市町村支援センターが開設され、総合的な相談・活動支援・コーディネート業務が展開されている。

事業の名称、概要

名称：青少年の体験活動ボランティア活動プログラム集の発行

毎年、体験活動・ボランティア活動への参加が見込まれる7月～9月までの夏季休業期間に合わせ、小学校の低学年から大学生までの青少年が「参加・体験・学習」することができる「活動の場」及び「体験活動・ボランティア活動のプログラム」を「青少年の体験活動・ボランティア活動プログラム集（以後、プログラム集という）」としてまとめ、県内の全小・中・高等学校・大学・専修学校に配布した。

プログラム集は学校や地域で体験活動・ボランティア活動の情報資料として活用されるほか、子どもたちの活動を支援する側である学校教員、支援センタースタッフ、市町村ボ

ランティアセンターなどの相談窓口においても、コーディネートの参考資料として活用され、県域での情報の共有化が図られている。

また、冊子の発行に併せ、県支援センターのホームページ上においても情報を広く公開し、冊子資料と併せて情報の活用が図られた。

事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

本県では学校や地域において、多様な体験活動・ボランティア活動への参加の気運が高まる中、活動に参加するための相談やコーディネートの役割を担う窓口や人員配置などの条件整備、青少年を取り巻く大人の関わりが十分でない状況であった。そのため、実際に青少年が活動を希望しても必要な情報や、活動に参加するまでのコーディネートや支援を受けることができず、活動に参加する機会が得にくい状況にあった。

このような状況を踏まえ、学校や地域、体験活動やボランティア活動の支援機関が連携し、青少年が身近な居住地域で、体験活動やボランティア活動に参加できる体制づくりが急務とされた。

そこで、「青少年の体験活動・ボランティア活動プログラム集」を作成し、プログラム集の活用を通じて、学校内や地域の活動支援窓口、青少年にプログラム提供や活動受け入れなどを行う社会教育施設や福祉施設におけるコーディネートの拡充と情報の共有化を図ることを目的に実施した。

事業の内容

① 事前準備として行った取り組み（企画段階）

山梨県内における青少年の体験活動ボランティア活動に関する現状把握を目的としたアンケート調査を実施した。調査の対象は県内の福祉施設・社会教育施設・市町村教育委員会・市町村の支援センター、市町村社会福祉協議会などに調査票を送付し現状の把握を行った。

アンケート調査の結果を基に、青少年の体験活動ボランティア活動の場や活動プログラムの提供を行える箇所の情報二次調査、更に詳細の活動内容や活動受け入れ可能日、担当者等の情報を収集し、二次調査の結果を「青少年の体験活動ボランティア活動プログラム集」にまとめ冊子資料として発行した。

発行したプログラム集を県内の全学校（専修学校、短大、大学を含む）に配布し、学校内でのコーディネートや、活動支援窓口におけるコーディネート資料として活用を図り、活動参加者の一斉募集を行った。また、プログラム集の情報は県支援センターのホームペ

ージにも情報を掲載し、気軽に検索・閲覧できるよう情報を公開した。

② 活動の展開内容（活動段階）

各7月～9月の夏季休業期間中に各プログラム実施先（受け入れ先）の担当者や活動支援機関の窓口担当者により、活動を希望する青少年の相談対応やコーディネート、活動希望者の受け入れ調整を行った。

また、活動状況については、受け入れ期間終了後の10月に、全受け入れ先に青少年の参加状況の把握を目的とした受け入れ状況調査を行い、各受け入れ先での活動状況を把握。

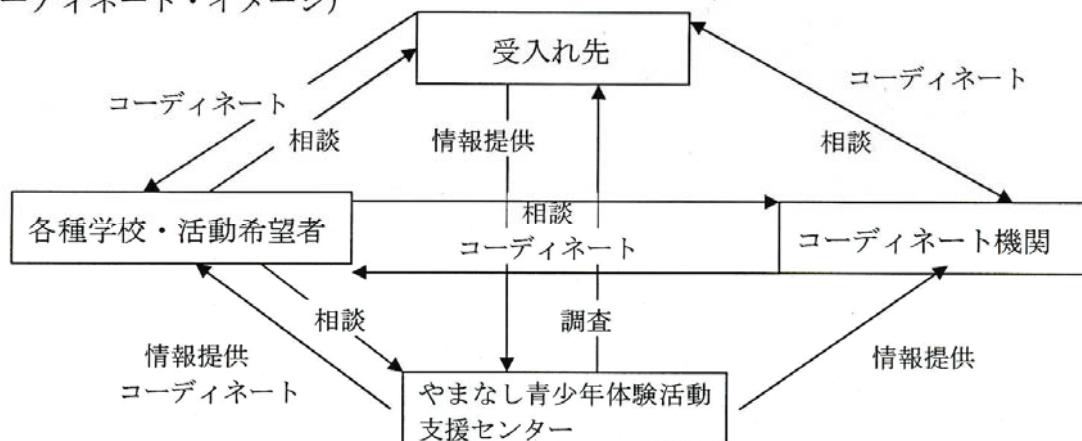
受け入れに関する課題・活動内容を集計。活動推進の基礎データとして関係機関と情報の共有を図った。

③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

本事業では、青少年の体験活動ボランティア活動に関する情報の共有と、活動に参加するために必要な情報や手続きを予め情報収集し、コーディネートを簡略化することに重点を置き、アンケート調査による意向調査・受け入れ日程の調整・具体的な受け入れに関するコーディネートの協力など、関係機関との連携を図りながら進めている。

また、青少年が体験活動ボランティア活動を積極的に「参加・体験・学習」が行えるよう、多様なニーズに対応した豊富な活動情報と、気軽に相談や活動参加できるように必要な活動先の受け入れ日程・活動内容・相談担当者などの詳細情報を収集し掲載した。

(コーディネート・イメージ)



事業の成果と今後の課題

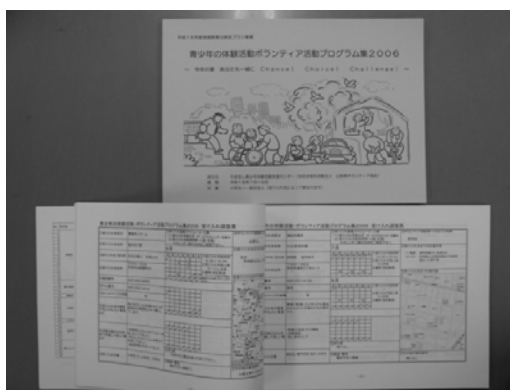
単なる情報資料としてではなく、活動参加者が簡易に情報を入手でき、自ら活動希望先を選択し、連絡・活動相談を行うことができる資料づくりを行った。

また、支援センターや市町村社会福祉協議会などの相談窓口でのコーディネートのほか、社会教育施設や福祉施設などにおいても青少年の体験活動・ボランティア活動に関するコーディネートを行うことができ、プログラム集の発行によりコーディネート機能の拡充にもつながっている。

毎年、プログラム集を活用し約1,000人が、体験活動ボランティア活動に参加した。本事業の目標である「活動参加の機会づくり」と「情報の共有」は達成することができた。しかし、多様化する個別のニーズに対応した活動プログラムメニューの開発や、更に気軽に相談・連絡調整が行える相談・コーディネートなどの青少年を取り巻く大人の関わりや情報提供やコーディネートを行う支援機能の拡充が今後も必要である。



やまなし青少年体験活動支援センターが開設されている「山梨県ボランティア・NPOセンター」（外観）



作成・配布している「青少年の体験活動・ボランティア活動プログラム集」
（A4版・85頁）

青少年の体験活動・ボランティア活動プログラム集2007 受け入れ調整票

| | | | |
|---|---|---|------------------------------|
| ①受け入れ先区分 | 支援センター | ①受け入れ可能なプログラム名 (2)受け入れ可能な曜日 ※ 受け入れ可能な曜日のみ ※ ボランティア活動への加入の有無 | ③受け入れ先までの交通手段 電車 徒歩15分 |
| ②受け入れ先名称 | やまなし青少年体験活動支援センター | 7月 | |
| ④受け入れ先住所 | 〒400-0037 甲府市丸の内2丁目35-1 山梨県ボランティア・NPOセンター | ⑤電話番号 055122412943 | |
| ⑥受け入れ先の概要 受け入れたい事業 など | ⑦受け入れ先へのアクセス ⑧受け入れ先までの交通手段 ⑨受け入れ先までの交通手段 ⑩受け入れ先までの交通手段 | ⑪受け入れ先までの交通手段 ⑫受け入れ先までの交通手段 ⑬受け入れ先までの交通手段 | |
| ⑫受け入れ先へのアクセス ⑬受け入れ先までの交通手段 ⑭受け入れ先までの交通手段 | ⑮受け入れ先までの交通手段 ⑯受け入れ先までの交通手段 ⑰受け入れ先までの交通手段 | ⑱受け入れ先までの交通手段 ⑲受け入れ先までの交通手段 ⑳受け入れ先までの交通手段 | |
| ⑳受け入れ先までの交通手段 ㉑受け入れ先までの交通手段 ㉒受け入れ先までの交通手段 | ㉓受け入れ先までの交通手段 ㉔受け入れ先までの交通手段 ㉕受け入れ先までの交通手段 | ㉖受け入れ先までの交通手段 ㉗受け入れ先までの交通手段 ㉘受け入れ先までの交通手段 | |
| ⑳受け入れ先までの交通手段 ㉑受け入れ先までの交通手段 ㉒受け入れ先までの交通手段 | ㉓受け入れ先までの交通手段 ㉔受け入れ先までの交通手段 ㉕受け入れ先までの交通手段 | ㉖受け入れ先までの交通手段 ㉗受け入れ先までの交通手段 ㉘受け入れ先までの交通手段 | |

プログラム集2007受け入れ調整票（やまなし青少年体験活動支援センター）

執筆者職・氏名:やまなし青少年体験活動支援センター 総括リーダー 和田 豊

コーディネーターからの一言コメント
 ボランティアをしたいと思いますとき、窓口適切な情報があるか、相談できるコーディネーターがいるかは、ボランティアの士気高揚に影響する。県内関係者の協力で発行された「活動プログラム集」は、各担当窓口でコーディネート資料、活動希望先選択に活用され、参加者の拡充等で成果を上げている。更なる内容の充実、更新が待たれる事業である。
 (坂東 佑司)